

※健康科学科とリハビリテーション学科は小論文または数学から1科目選択

試験時間 60分

1. 試験時間は60分である。
2. 問題冊子の右下に受験番号を記入すること。
3. この問題冊子の頁は次頁1から4である。
4. 解答はすべて解答用紙の指定された箇所に記入すること。
5. この問題冊子を持ち帰ってはいけない。

下記の文章と表をもとに、設問に答えなさい。なお、答はすべて解答用紙に記入しなさい。

わが国の食中毒の発生状況は、依然として身近な健康問題として日常生活における脅威となっており、予防対策には原因食品、病因物質、原因施設などの情報や知識が必要である。

表1 食中毒の事件数、患者数、死者数の推移

年	事件数	患者数	死者数
1975	1783	45277	52
1985	1177	44102	12
1995	699	26325	5
1997	1960	39989	8
1999	2697	35214	7
2001	1928	25862	4
2003	1585	29355	6
2005	1545	27019	7
2007	1289	33477	7
2009	1048	20249	0

表2 月別の食中毒事件数

月	1994年	2009年
1	40	107
2	27	65
3	24	88
4	30	63
5	33	85
6	48	85
7	145	91
8	184	98
9	144	108
10	100	77
11	31	52
12	24	129

表3 原因食品分類別の食中毒事件数と患者数(2009年)

	事件数	患者数
総数	1048	20249
原因食品判明	805	17833
原因食品不明	243	2416
原因食品判明総数	805	17833
魚介類	94	723
魚介類加工品	9	481
肉類及びその加工品	91	852
卵類及びその加工品	10	336
穀類及びその加工品	12	142
野菜及びその加工品	54	788
菓子類	7	149
複合調理食品	59	1318

注) 原因食品分類は主要なものを挙げた

表4 病因物質別の食中毒事件数と患者数(2009年)

	事件数	患者数	
総数	1048	20249	
病因物質判明	948	18514	
病因物質不明	100	1735	
病因物質判明総数	948	18514	
細菌	サルモネラ菌	67	1518
	ぶどう球菌	41	690
	腸炎ビブリオ	14	280
	腸管出血性大腸菌	26	181
	その他の病原性大腸菌	10	160
	ウェルシュ菌	20	1566
	セレウス菌	13	99
ウイルス	カンピロバクター	345	2206
	ノロウイルス	288	10874
	その他のウイルス	2	79
その他	化学物質	13	552
	自然毒	92	290
	その他	17	19

注) 病因物質：食中毒の原因となった微生物や毒物など

表5 原因施設別の食中毒事件数と患者数(2009年)

	事件数	患者数
総数	1048	20249
原因施設判明	864	19859
原因施設不明	184	390
原因施設判明総数	864	19859
家庭	95	248
事業所	43	1596
学校	15	731
病院	8	255
旅館	84	3749
飲食店	562	10336
販売店	10	119
製造所	9	239
仕出屋	25	1683
その他	13	903

表6 食中毒の病因物質の特性

病因物質	汚染される代表的な食品	食品加熱の有効性
サルモネラ菌	肉、卵、乳製品	有効
ぶどう球菌	弁当、おにぎり、かまぼこ	無効
腸炎ビブリオ	生魚介類、魚の刺身	有効
カンピロバクター	生鶏肉、鶏刺し、生乳	有効
ノロウイルス	二枚貝(生カキ)	有効
自然毒	キノコ類、フグ	無効

出典：厚生統計協会・厚生労働省：厚生指標、「国民衛生の動向」(1994年、2009年)より抜粋し、一部改変した。

## 設問

問1 表1の内容について正しいものには○印、誤っているものには×印をつけなさい。

- (ア) 2001年以降、食中毒事件数は減少傾向にある。
- (イ) 1975年以降、死者数は減少傾向にある。
- (ウ) 食中毒の患者数は事件数にほぼ比例している。
- (エ) 1997年と2009年における1事件あたりの患者数にはおよそ2倍の差がある。

問2 表2について以下の各問に答えなさい。

- (1) 1994年と2009年の月別の食中毒事件数の推移を折れ線グラフで示しなさい。なお、1994年の値は○印、2009年の値は●印で記し、それぞれ線で結びなさい。
- (2) 作成した図をもとに、1994年と2009年の月別の食中毒事件数の特徴について述べなさい。

問3 2009年の資料をもとに、[ ]内に適切な数値を、( )内に適切な言葉を入れて次の文章を完成させなさい。なお、A～Cは小数点以下を四捨五入して整数で答えなさい。また、ア～シには同じ言葉が入ってもよい。

食中毒の原因食品の特定は困難な場合が多く、この年の食中毒事件数のうち原因食品が判明したのは全体の [ A ] %で、事件数の多い分類順に ( ア )、( イ )、( ウ ) である。患者数で見ると多い順に ( エ )、( オ )、( カ ) である。食中毒の病因物質は患者数の多い順に ( キ )、( ク )、( ケ ) である。( キ ) に汚染される代表的な食品には ( コ )、( ク ) に汚染される代表的な食品には ( サ ) があり、このことは食中毒の原因食品分類として ( ア ) や ( イ ) が多かったことに対応している。食中毒が発生する原因施設についてみると、事件数が一番多かった原因施設は ( シ ) で、1事件あたりの患者数は [ B ] 人であり、この原因施設だけで食中毒事件総数の [ C ] %を占めている。

問4 事件数と患者数がともに第一位だった原因施設において食中毒が多発している原因について、資料をもとにあなたの考えを250字から300字で述べなさい。